

[010]ポリモルフィア表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7347442>

出版情報：ポリモルフィア. 10, 2025-03-21. Office for the Promotion of Gender Equality, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



総評

2023年度ジェンダー研究に取り組む学生への研究助成プログラム

野々村淑子

九州大学男女共同参画推進室 学生教育等部門長
大学院人間環境学研究院 教授

2010年度から始まった学生対象のジェンダー研究助成制度は、2023年で14年目を迎え、のべ159名が採択された。このようなジェンダーの視座による研究促進を目的とした学生支援の活動は、国内でも珍しい取り組みとして評価されている。ここ数年は夏休み期間に調査ができるよう、公募を4月上旬に繰り上げての開始となっている。公募に際し、学内の広報はポスターの掲示だけでなく、学生ポータルやホームページによる情報提供も行っている。ポスターについては、周知を拡げる目的もあり、視覚的にも学生たちの記憶に定着するように、制度の開始初年度に学生教育等部門の室員であった芸術工学研究院の尾方義人教授によるデザインのもの第一回から継続して掲出している。

これまでに助成対象になった研究は、経済、芸術、医療、介護メディア、防災、臨床心理、政治、スポーツ、文学、歴史、建築、発達心理、サブカルチャー、労働、教育、デザインなどが挙げられ、対象領域は年々広範囲に広がってきている。本助成は多様な学問分野、領域へのジェンダー研究の浸透、広がりを目指すため、学部生による意欲的な研究から修士課程、博士課程の学生に

よりより専門的な研究まで、幅広く募集し、できるだけ多くの研究計画を採用することが合意されてきた。審査にあたっては、学生教育等部門の教員全員により、明確な基準をもとに実施し、配分額を決定している。また、新型コロナウイルス感染症拡大時にあたって出張時の安全管理について強化した。

2023年度の応募者は16名であり、15名が採択され（1名はジェンダー関連研究ではなかった）、途中で2名が辞退した。採択者の内訳は、博士課程5名、修士課程7名、学部生1名であり、所属は芸術工学府、人間環境学府、人文科学府、地球社会統合科学府、共創学部等から応募があった。近年、インタビューやアンケート等、個人情報扱う調査が増加しており、倫理的配慮についての指導が必要との議論があった。そのため昨年度から申請書に「研究における倫理的配慮について」の書類を加えることにした。

2024年2月13日には「ジェンダー研究に取り組む学生への研究助成プログラム令和5年度報告会」をコロナ禍以前と同様の対面形式を復活、男女共同参画推進室多目的スペースにて開催した。報告者の研究テーマは下記の通りである。本報告

会は、ジェンダーやセクシュアリティの視点から異分野の学生がそれぞれのアプローチで研究を報告することによって、相互に刺激し合い、より深い洞察、あらたな研究テーマの発見に繋げていくことが期待されている。今回の報告会でも、参加した教員、学生との間では、英語での議論を含む活発な質疑応答と意見交換が行われ、参加者からは個々の研究に対する示唆的な助言があった。とりわけて、久しぶりの対面開催となり、オンライン時よりも活発な質疑応答の時間をもつことがで

きたと思う。さらに、報告会后、同会場でささやかな懇親の場をもつことができた。質疑応答の時間が限られているため、そこで議論できなかったことを確認しあったり、あるいは学部、学府を超えた学生同士の交流ができたことは非常に有意義であった。

なお、この研究助成プログラムは、採択者の研究成果を3月末に報告書にまとめており、2023年度の実施報告者と研究テーマは下記のとおりである。

2023年度実施報告者と研究テーマ一覧

| 番号 | 名前 | 所属 | 学年 | タイトル |
|----|------------------------|-----------|----|--|
| 1 | 出石 琴美 | 共創学部 | B4 | Beyond Numbers: Demographic Influences and Institutional Gender Equality in Academia |
| 2 | 全 哲夜 | 人間環境学府 | M1 | 恋愛経験と自己成長の関連性及び性差についての探索的研究 |
| 3 | 劉 威桐 | 人間環境学府 | M1 | 中国映画における百年間の女性像の変遷から見る女性意識の変化 |
| 4 | 千々松皇陽 | 人間環境学府 | M1 | 戦後日本における、家族規範の模索 |
| 5 | 西谷 萌 | 芸術工学府 | M1 | 韓国映画・テレビドラマに見るジェンダー観 |
| 6 | ZHU Yiwon | 芸術工学府 | M1 | LGBTQプレイヤーをエンパワーするゲームを作るために必要な要素を明らかにする研究 |
| 7 | 依田 拓海 | 芸術工学府 | M1 | 衣服に対する印象判断の性差 —シルエットを中心に— |
| 8 | 柴田 昌 | 経済学府 | M2 | 結婚・出産が女性の貯蓄行動に与える影響のパネルデータ分析 |
| 9 | 宮内 孝啓 | 人文科学府 | D2 | ジェンダー規範出現の哲学的分析：進化ゲーム理論の観点から |
| 10 | LI Huifeng | 地球社会統合科学府 | D3 | Negotiation of masculinities among gay migrants in the urban China |
| 11 | YAO Claire Ji Shing | 芸術工学府 | D2 | Restorying through translanguaging arts-based inquiry in English language education |
| 12 | 杜 海妍 | 歯学府 | D3 | Elucidating the role of microglia in molecular basis of sex differences in Alzheimer's disease |
| 13 | 彭 子濃 | 芸術工学府 | D4 | 日本の大学における外国人女性研究者の現状と課題—九州大学を事例に |

注) 所属および学年は、2024年2月時点